

整理番号 No	科目名 Course Name	学期 Term	配当年次・単位 Student Year(s)・Credit(s)	担当教員 Professor
103	政治学演習 (梅森直之)	秋学期 (週2回)	3年以上：4単位	梅森 直之 政政・経演・国演

副題  
Subtitle

近代日本の政治思想

授業概要  
Course Description

われわれが現在暮らしている日本は、いったいいかなる来歴をへて、現在あるようなかたちになったのか。そしてそこにはどのような特徴があり、どのような問題があるのか。本ゼミナールでは、グローバルな歴史との連動を意識しながら、現代の日本を理解するうえで重要な政治思想の系譜を概観する。明治維新、自由民権運動、日清・日露戦争、台湾と朝鮮の植民地化、第一次世界大戦、満州事変と日中戦争、太平洋戦争の開始と敗戦、高度経済成長と安保闘争、グローバリゼーションと格差社会、これらは、資本主義とナショナリズムの変動を示す指標であり、またある場合にはその原因ともなった事件であった。日本の知識人たちは、こうした事件とともに、次第に顕在化する、階級やジェンダー、都市と農村、植民地と本国のあいだの矛盾や対立を問題化しつつ、そうした矛盾や対立を解決する方策を模索してきた。本ゼミナールでは、そうした矛盾や対立が、人びとにどのように経験され、そしてそこからどのような思想が生み出されたかを、明治維新から現代にいたるまでの代表的な日本の知識人のテキストをともに読み、議論することで、検証してゆく。

授業の  
到達目標  
Objectives

テキストの「読み方」の習得  
自分の考えを効果的に伝える「書き方」の練習  
生産的に「議論する」訓練

授業計画  
Course Schedule

※ 専門演習の「授業計画」は、募集の時点でホームページ等で公開しますので、必ず記載してください。

- 第1回：イントロダクション：「歴史」とは何か。現在問われるべき「問題」は何か  
 第2回：オンリー・イエスタディ（1980年代）：バブル経済下の学生生活の変容  
 第3回：安保から高度成長へ（1960年代、70年代）1：反公害闘争と民衆史  
 第4回：安保から高度成長へ（1960年代、70年代）2：反植民地闘争と安保闘争  
 第5回：戦後民主主義とは何か（1950年代、60年代）1：近代主義と近代化論  
 第6回：戦後民主主義とは何か（1950年代、60年代）2：主体性と戦争責任  
 第7回：占領と改革（1940年代）1：民主化の時代  
 第8回：占領と改革（1940年代）2：世界史のなかの占領  
 第9回：戦争の理念・戦争の思想（1930年代、40年代）1：戦争の記憶  
 第10回：戦争の理念・戦争の思想（1930年代、40年代）2：近代の超克  
 第11回：満州国の理想と現実（1930年代）1：東亜共同体から大東亜共栄圏へ  
 第12回：満州国の理想と現実（1930年代）2：植民地なき帝国主義  
 第13回：中間考察  
 第14回：資本主義と不均等発展（1920年代）1：大正デモクラシーの光と影  
 第15回：資本主義と不均等発展（1920年代）2：モダンガールの光と影  
 第16回：資本主義と不均等発展（1920年代）3：革新主義の台頭  
 第17回：植民地支配の理想と現実1：台湾 植民地統治の始まり  
 第18回：植民地支配の理想と現実2：台湾 自治政府への希求とその意義  
 第19回：植民地支配の理想と現実1：朝鮮 皇民化政策の来歴  
 第20回：植民地支配の理想と現実2：朝鮮 独立運動の展開  
 第21回：「社会」と「個」の発見（1910年代）：天皇機関説と民本主義  
 第22回：初期社会主義とその時代（1900年代）1：日露戦争とその批判  
 第23回：初期社会主義とその時代（1900年代）2：社会問題の発生と初期社会主義  
 第24回：乱反射するオリエンタリズム1：和辻哲郎、近衛文麿、岡倉天心  
 第25回：乱反射するオリエンタリズム2：樽井藤吉、福沢諭吉、大井憲太郎  
 第26回：国家建設期の思想史的問題1：文明論  
 第27回：国家建設期の思想史的問題2：自由民権論  
 第28回：「近世」とは何か1：徳川儒学の可能性  
 第29回：「近世」とは何か2：近世のなかの近代  
 第30回：理解度の確認

**教科書**  
Textbook(s)

別途指示する。

**参考文献**  
Reference Book(s)

梅森直之編著『ベネディクト・アンダーソン グローバリゼーションを語る』（光文社、2007）  
ハリー・ハルトゥーニアン『近代による超克』（岩波書店、2007）

**評価方法**  
Evaluation

	割合 (%) Percent (%)	評価基準 Description
試験 Examination(s)	%	
レポート Report(s)	50 %	
平常点評価 Class Participation	50 %	
その他 Other	%	

**備考**  
Note

これまでの基礎知識は問いませんが、これからの学習に対する強い意欲と好奇心ならびに知的柔軟性と持久力が必要です。無断欠席3回以上で、評価の対象から外します。

**関連URL**  
URLs for References